

淡江大學 108 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：中級日語及語法

2-1

考試日期：1月13日(星期一) 第1節

本試題共 54 大題， 2 頁

一、單選題・閱讀測驗：請仔細閱讀文章，從()選擇適當選項。(40%)

それは十月の初めの風の強い夜だった。寒くはなかった。どちらかというともむし暑い 1 (a. くらい b. より c. をはじめして) の気候だった。夕方ごろからやけに蚊が多くてね。もう秋だというのに蚊取線香を二つ点けてたの 2 (a. が b. を c. で) 覚えてるよ。ずうつと風が音 3 (a. が b. を c. で) 立てていた。ちょうどプールの仕切り戸 4 (a. が b. を c. で) 壊れていてね、これが風にあおられてばたんばたんとうるさかった。なおそうかとも思ったんだけど、暗くてなおしようもなかった。 5 (a. しかし b. まず c. それで) 一晩中ばたんばたんさ。

九時 6 (a. と b. で c. に) 見回った時には何も起こらなかった。二十のチェック・ポイントは全部 OK だった。鍵はちゃんとかかっているし、何もかもちゃんとあるべき場所 7 (a. と b. で c. に) あった。変わったことは何もない。僕は用務員室に戻って目覚まし時計 8 (a. が b. を c. で) 三時にあわせてぐっすり眠った。

三時に時計のベルが鳴った時、僕はなんだかすごく変な気 9 (a. が b. を c. で) した。うまく説明できないんだけど、実に変な気分なんだよ。具体的に言うとね、起きたくないわけさ。体が起きよう 10 (a. と b. で c. に) する僕の意志を押しとどめてるような感じさ。僕は寝起きはとても良いから、そんなことってあり得ない。で、無理に起きあがって、見回りの仕度をした。あいかわらずばたんばたんという仕切り戸の音がつづいていた。でもね、その音が何かしらさつきとは違うような気 11 (a. が b. を c. で) するんだよ。気の 12 (a. おかげ b. せい c. 関係) と言われればそれまでだけど、うまく体 13 (a. と b. で c. に) 馴染まない。嫌だな、見回りたくないな、と思った。でもやはり意 14 (a. が b. を c. で) 決して行くこと 15 (a. と b. で c. に) した。だってそういうのって一度ごまかすと、その先何度もごまかすことになるからね。僕は懐中電灯と木刀を持って用務員室を出た。

嫌な夜だったよ。風はますます強くなって、空気はますます湿っぽくなっていた。肌がちくちくして、気持がうまく集中できないんだ。まず最初に体育館と講堂とプール 16 (a. が b. を c. で) 片づけた。どれも OK だった。戸は頭の狂った人間が首を振ったり肯いたりするみたいな感じ 17 (a. が b. を c. で) ばたんばたん開いたり閉じたりしていた。すごく不規則なんだ。うん、うん、いや、うん、いや、いや、いや……っていった感じの音なんだよ。なんだか変なたとえだけど、その時は本当にそう感じたんだよ。

校舎の中もべつに異常はなかった。いつものとおりさ。ざっと見回って用紙のチェック・ポイントに全部 OK サインを書き込んだ。結局何も起こらなかった。それで僕はほっとして用務員室に戻ろう 18 (a. と b. で c. に) 思った。最後のチェック・ポイントが給食室の横のボイラー・ルームで、これは校舎の東端にある。一方、用務員室は西端にある。だからいつも僕は一階の長い廊下を歩いて用務員室に戻ることに 19 (a. と b. で c. に) なる。もちろんまっ暗だよ。月が出ていれば少しは明かりが入ってくるけど、そうでなきゃまるで何も見えない。懐中電灯で少し先 20 (a. が b. を c. で) 照らしながら歩いていくわけさ。その夜は台風が近いから、もちろん月なんて出てない。ほんの時たま雲が切れても、すぐにまたまっ暗になってしまう。

(村上春樹「鏡」講談社より)

背面尚有試題

淡江大學 108 學年度進修學士班寒假轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：中級日語及語法

考試日期：1月13日(星期一) 第1節

本試題共 三 大題， 2 頁

二、單選題・文法：請仔細閱讀句子，從（ ）選擇適當選項。(20%)

1. 鈴木さん、これ、国の母が (a. 送ったん b. 送ってきた c. 送っていったん) です。食べてみてください。
2. おとし、一緒に北海道へ行ったでしょう。(a. これ b. それ c. あれ) は七月でしたよね。
3. 英語はアメリカを (a. はじまり b. はじめ c. 最初) として、たくさんの国で使われています。
4. 雨が (a 降ったら. b. 降ると c. 降れば)、タクシーで行きましょう。
5. この子はまだ (a. 小学生 b. 小学生な c. 小学生で) ものですから、お化粧品は結構です。
6. 病気ですから、あの人に甘いものを (a. 食べる b. 食べられる c. 食べさせる) わけにはいきません。
7. 明日 12 時 (a. まで b. までに c. から) 学校に着かなければなりません。
8. 犬がいつでも入れるように、ドアが (a. 開いて b. 開けられて c. 開けて) あります。
9. この手紙、3、4 日でアメリカに (a. 着く b. 着かれる c. 着ける) でしょうか。
10. スポーツ (a. については b. に関わって c. においては)、彼はスラスで一番です。

三、詞彙變化：請依照句子前後文的意思並配合句型，把（ ）的詞彙做適當變化。(20%)

1. 妹はいつもアイスクリームを_____。(食べたい)
2. 濡れないように、雨が_____うちに、帰りましょう。(降る)
3. 鈴木さんは小さい頃から体が弱いので、学校を_____がちです。(休む)
4. 観客がたくさん来ていい、彼はちょっと_____気味です。(緊張する)
5. テレビで_____以来、毎日たくさんの方が訪れるようになりました。(紹介する)
6. もう二度と同じミスを_____まいと心に決めました。(犯す)
7. あそこは全然面白くないよ。たとえ私が_____としても、絶対行かないと思う。(日本人)
8. _____がたいと思うかもしれませんが、私はもう一人で車椅子に乗れるようになりました。(信じる)
9. 最近暇ですが、日本でも遊びに_____と思います。(行く)
10. 定員に_____次第、終了させていただきます。(なる)

四、句子重組：請將下列詞彙組合成意思通順的句子。(20%)

※注意：重組的句子詞彙排列組合不合乎日文文法邏輯整句無分數。

1. 玄関のベルが／おおかた／明るい音色で／食事を／我々が／ころに、／終えた／鳴った。
2. 猫の／顔つき／食べかけの／途中で／行かれた／皿を／持って／ような／だった。

(村上春樹『騎士団長殺し』新潮社より)